



ASAHIGAWA ROTARY CLUB

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2500 No.3 GROUP
Established on October 26th.1934 RI No.3744

国際ロータリー第2500地区 第3分区

旭川ロータリークラブ 会報

第3627回例会 Vol.77 No.28 2026(令和8)年3月13日(金)

▼ プログラム

ロータリーアクトクラブ合同例会(夜間)

メニュー

- ・新玉ねぎのムースとサーモンクリュ 野菜のクーリ
- ・お造り(鮪・鯛・細魚)
- ・鶏肉の焼き物パウダー掛け
- ・大海老の青麻鮮炒め
- ・道産三元豚肩ロースのロースト 粒マスタードソース
- ・白子御飯
- ・甘夏ジュレ

水と衛生月間

出席報告

第3626回例会

3月6日

会 員	100名
出 席	58名
出 席 率	58.00%

RIテーマ

会長 フランチェスコ・アレツツォ

“よいことのために手を取りあおう”

3月20日(金) 休会(3月20日春分の日)

これからの予定

- 3月27日(金) ゲストスピーチ NPO法人旭川マンション管理組合連合会 会長 水島能裕 氏
- 4月3日(金) 新入会員卓話 千代田電装工業株式会社 代表取締役 山内朋幸 会員
- 4月10日(金) ゲストスピーチ 一般社団法人北海道麻振興会 副代表理事 川江 修 氏

3月6日(金) 第3626回例会の記録

開 会 宣 言	新崎裕一 会場監督
国 歌 斉 唱	君 が 代
ロータリーソング斉唱	奉仕の理想

点 鐘 会長 12:30

- 会 長 濱岡雄史
- 編 集 会報委員会
- 委員長 高田雅史
- 担 当 高田雅史
- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 事務局 五十嵐友紀子
- 例会場 星野リゾート OMO7 旭川 〒070-0036 旭川市6条通9丁目 TEL(0166)29-2777 FAX 24-2114
- 事務局 道北経済センタービル 2F 〒070-0043 旭川市常盤通1丁目 TEL(0166)25-1551 FAX 23-3398
- ホームページ <http://www.asahigawarc.org/>
- Facebook [facebook.com/asahigawaRC/](https://www.facebook.com/asahigawaRC/)



facebook

会長挨拶：濱岡雄史

皆さま、こんにちは、例会にご出席いただき、ありがとうございます。

本日の会員卓話は広葉樹合板株式会社代表取締役 山口裕也会員です。スピーチを楽しみにしております。

切通会員が4月1日付で転勤により、退会することとなりました。本日が例会出席最後となります。後ほど、退会のあいさつをお願いいたします。

本日は、今週初めにご提案いたしましたハラスメント防止規定制定に関する臨時総会です。さっそく臨時総会に入りたいと思います。

まず、クラブ細則の規定に従い議長は会長である私が務めます。本日の出席会員数は62名です。定足数に達していることをご報告いたします。

提案のハラスメント防止規定は、2024年および2025年に当クラブで発生したハラスメント事案について、クラブとして適切に区切りをつけるため、事案内容の精査を行い、再発防止策と対応方針を整理しました。併せて、クラブ内外のすべての関係者が安心して活動できる環境を整えるため、ハラスメント防止規定の策定についても検討を進めました。2024年の事案では、LINE等のアカウント交換・登録に関する同意の任意性が争点となり、2025年の事案では、ハラスメントの疑いがある発言に対し、抗議の声を上げず看過したことが事態の深刻化につながるなど、いずれも課題が明らかになりました。

これらの反省を踏まえ、10月3日の理事会において特別委員会の設置が承認され、11月14日から本年2月13日まで計5回の委員会を開催し、規定内容の検討や啓発活動の進め方について協議を重ねてまいりました。なお、2024年の事案については、2025年7

月4日の会報、2025年の事案は2025年10月10日の会報に掲載されておりますので、詳細は割愛いたします。

この場をお借りして、ハラスメント防止規定案の概要を説明させていただきます。

また、経緯は先ほど述べたとおりですが、国際ロータリーではハラスメントについて大変厳しい規定を設けておりますが、会員に十分に周知・理解されているとは言えず、クラブ内外の関係者と健全で良好なコミュニケーションを維持するため、ハラスメントのない環境づくりを目的として、クラブ独自に本規定を制定することといたしました。

防止規定の概要

- ハラスメントの定義
- 適用範囲
- 予防措置
- SNS・連絡先交換およびオンライン上のコミュニケーションに関するルール
- ハラスメント被害の申し立てルール
- 重大な違反への対応

今後の予定としては、ハラスメント研修の実施(ラーニング委員会担当)と今後も年1回程度のハラスメント講習の継続実施し、本規定を周知していく予定です。

特にコミュニケーションルールとして、SNS・連絡先交換・オンラインコミュニケーションのルールを具体的に決めました。

連絡先交換は完全に任意であり強要は禁止

- ロータリアンとローターアクター、年齢差、先輩後輩、取引関係などから連絡先交換を断りづらい状況があるため、明確な同意がある場合のみ交換可能(曖昧な同意は無効)
- 青少年との連絡は原則として保護者または

責任者を通じて行う

- 深夜連絡、過度な私的連絡、性的・不適切な内容は禁止
- 許可なく連絡先を第三者へ共有しない
- オンライン会議では不適切な服装・背景・発言を禁止
- SNSでのコメント・絵文字等も含め、侮辱的・性的・不快な表現は禁止

重大な違反への対応について

- セクシュアルハラスメント又は深刻なハラスメントが認定された場合、国際ロータリーの規定に従って会員資格身分を終結
- そのような行為が判明している人物の新規会員認定は行わない
- 問題が解決するまで青少年との接触を禁止

以上、この提案のとおり、本規定を制定したいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、ご承認いただけましたので、本年4月1日より施行いたします。

また、5月8日の観桜例会で啓蒙活動の一環として、ハラスメント研修の時間を取りたいと思っておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

それではお食事にいたします。



退会される切通会員から挨拶がありました。

会 務 報 告

- 1) ロータリーレート変更のお知らせ
2026年3月1日より 1ドル 156円
- 2) 第42回「ライラセミナー in くしろ山花」開催のご案内收受
- 3) 環境問題オンラインセミナーのご案内(オンデマンド配信)を收受
- 4) 国際ロータリー第2500地区ローターアクト 第51回地区大会 本登録のご案内を收受
- 5) 公益財団法人ロータリー米山記念奨学会より『ハイライトよねやま311』を收受
- 6) 一般財団法人比国育英会バギオ基金より『バギオだよりVol.113』收受
- 7) 旭川市立北門中学校より、「職場体験学習に関わる協力事業所のお願い」を收受
※受入先として、ご協力いただける方は、幹事もしくは事務局までご連絡ください。

米 山 記 念 奨 学 会

菅原康晴会員より寄付金とメッセージを頂きました。

「私共、株式会社菅原組が創立110周年を迎える事が出来ました。誠に感謝申し上げます。

私、ロータリークラブに入会いたしまして、30年を迎えました。ありがとうございます。」

ニ コ ニ コ ボ ッ ク ス

出口絢一 君

誕生日祝いを頂きました。ありがとうございます。喜寿(77歳)になりました。人生これからです。

前田政克 君

バースデープレゼント、有難うございます。

富川泰志 君

誕生日プレゼントをいただきましたので。

山口裕也 君

誕生日プレゼント、ありがとうございます。

浅野晃弘 君

妻の誕生日にお花をありがとうございました。また、オリンピックでの安藤麻選手^{あさ}のご声援、ありがとうございました。

佐藤弘康 君

妻の誕生日プレゼントにお花を頂きました。有難うございます。

近間政美 君

ミラノ コルティナ オリンピック、女子カーリングチーム「フォルティウス」の応援、ありがとうございました。

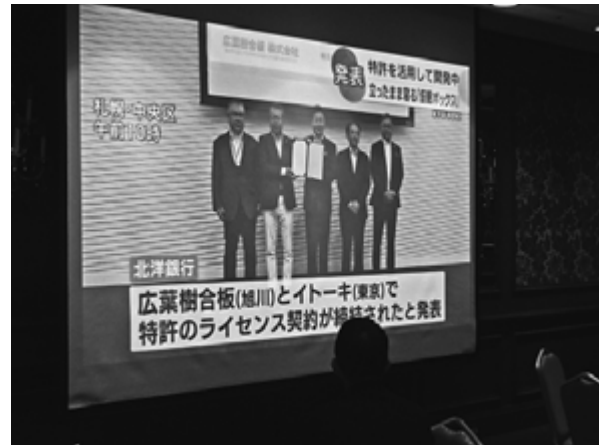
プ ロ グ ラ ム

新入会員卓話

「問いから始まる挑戦が、視点を変える」

広葉樹合板株式会社

代表取締役 山口裕也 会員



(冒頭、世界初の立ち寝仮眠ボックス "giraffenap"の映像を再生)

今日は、今ご覧いただいた映像そのものを説明するのではなく、そこに至るまでに自分がどんな判断をし、どこで立ち止まり、何を考え続けてきたのか、その過程をお話できればと思っています。

只今13時10分頃です。昼食を終えて少し時間が経ち、お腹が落ち着き始める頃だと思います。食べ終わった直後ではなく、満腹感をゆっくりと自覚し始める、そのあたりの時間帯です。私はこの時間帯が、あまり好きではありませんでした。集中力が落ちるからです。朝のように頭が冴えているわけでもない。夕方のように時間に追われている感覚もない。どこか中途半端です。

眠気を感じるのはいくつか、集中できないのは自分の管理不足、そう考えていた時期が長くありました。だから無理に気合を入れたり、コーヒーを飲んだり、席を立って歩いたりしていました。今振り返ると、身体の声をかなり無視していたと思います。ただ当時は、眠くならず常に集中している自分が理想像でした。

実は、この「13時の眠気」は、私だけの問題ではありません。日本人の平均睡眠時間はOECD加盟国で最下位の約6時間27分。ビジネスパーソンの約4割が慢性的な睡眠不足だという調査結果もあります。集中力の低下、

判断ミス、体調不良による欠勤などが積み重なり、厚生労働省の調査では、睡眠不足による経済損失は年間約15兆円に達しています。

しかし、私は整っていない状態、睡眠が足りていない状態で、ずいぶん多くの決断をしてきました。それが悪かったと言いたいわけではありません。当時の自分なりに、最善だと思える選択を積み重ねてきた結果です。ただ、今回の経験を通じて強く感じたのは、判断の質というもの、気合や根性だけでは支えきれないということでした。整っていない状態では、見えていなかった選択肢や、気づけなかったリスクが確実にあった。その事実を、後になってははっきりと自覚することになります。

そんな私が、ある知財マッチングの場に参加しました。会場は企業ごとのブースに分かれていて、担当者の方と一対一で話をする形式です。その日は少し疲れていました。前日の仕事の影響もあり、頭が完全に冴えている状態ではなかったと思います。いくつか説明を受けながら、どこか上の空で話を聞いていた部分もありました。そして面談の終わり際、担当者の方が少し笑いながら「こういう、少し視点の違うテーマもありますよ」と言いました。その瞬間、不思議なことに頭の中が一気にクリアになりました。関心が一点に集中した感覚です。後から考えるととても象徴的な出来事でした。

その時、担当者の方が見せてくださったのは、「立ったまま仮眠を取る」という、特許技術でした。担当者の方はこう言いました。

「みなさん、満員電車で立ったままウトウトした経験、ありませんか？」

確かに誰にでもある経験です。

「ただし、普通に立っているだけでは危ないし、深く眠ることはできません。だからこそ、体を安全に支える構造が必要なんです」

私の頭の中では、いくつかのことが同時に走り始めていました。まず、「これは、日本のオフィスに合うのではないか」という直感。横になる場所を確保するのは難しいが、立ったままなら省スペースで済む。

次に、「これは、自分が今まさに必要としているものではないか」という実感。この瞬間も、少し眠かった自分が、もし15分だけでも質の高い仮眠を取れたら、午後のパフォーマンスは確実に変わる。

そして、「これは、簡単ではないな」という覚悟。技術的なハードルも高いし、文化的な抵抗もあるだろう。でも、だからこそ、やる意味がある。

面談が終わった後、私は会場の外に出て、少し歩きました。頭の中を整理したかったからです。そして、ある結論に至りました。

「これは、やってみる価値がある」

同時に、「これは簡単な話ではないな」という感覚もありました。その後の展開は、正直、想定していた以上でした。ライセンス契約の発表の場には多くのメディアが集まり、次々と質問が投げかけられました。本当に形になるのか、安全性はどうなのか、完成の見通しはどうなのか…。その日の夕方、国内外で報道されている様子を目にしたとき、自分たちの覚悟が、この広がりによって本当に追いつているのかを問われているような感覚でした。

社内に話を持ち帰ったとき、反応はとても率直でした。「今回は、なかなか新しい切り口ですね」という空気だったと聞いています。驚きや戸惑いもあったと思います。現場が納得しなければ、この話は前に進みません。むしろ、ここからが本当の意味でのスタートでした。結果として、私を含めた3人でこの挑戦を始めることになりました。既存の仕事もある中での少人数でのスタートでした。

ゼロからの開発は、想像以上に時間がかか

りました。木材で試しては壊し、模型で確認してはやり直す。消防署に模型を持って何度も足を運び、現実的な条件と向き合いました。「人を預かる以上、中途半端なものを出せない」という意識が、すべての判断の基準になりました。

特に苦労したのが、消防法との兼ね合いでした。立ったまま仮眠を取る、という行為自体が前例のないものだったため、「これはどの基準で判断すればいいのか」という問いから始まりました。消防署の担当者の方も、最初は戸惑っていました。何度も消防署に足を運び、模型を持ち込んで説明しました。「この構造なら、緊急時にすぐ脱出できます」「この素材なら、燃えにくいです」「この設計なら、人が閉じ込められることはありません」。一つひとつ、安全性を証明していく作業でした。

そして、ようやく「これなら大丈夫」という判断をいただいたとき、正直ホッとしました。同時に、「ここからがスタートだ」とも思いました。

さらに、実際に人が中に入って寝る、という行為の安全性も検証しなければなりません。角度が急すぎると、体に負担がかかる。緩すぎると、眠れない。クッションの硬さ、高さ、体重のかかり方、すべてを何度も調整しました。

私自身、試作機に何度も入りました。社員にも入ってもらいました。体格の違う人、年齢の違う人、男性も女性も。できるだけ多くのパターンで試しました。

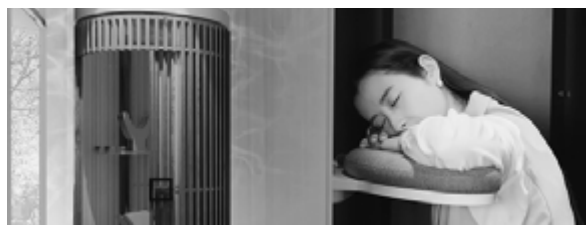
そして、ある時、ようやく「これなら、本当に寝られる」という感覚をつかみました。それは、技術的な完成ではなく、「人を預かれる」という確信でした。

大学の先生や海外の研究者の方々が「立って寝る」という行為を否定せず、まずは面白

がってくれたことに私たちは何度も救われました。挑戦していなければ、決して出会うことのなかった方々です。人との縁が、考え方や視野を少しずつ広げてくれました。

これら一連の経験を通じて、私自身の睡眠に対する考え方は大きく変わりました。今では、一日の中で最も楽しい時間が睡眠です。以前の自分からすると、信じられない変化だと思います。

私たちがここ旭川で事業を続けている理由についても、改めて考えさせられました。旭川は、木工の技術、デザインの力、ものづくりの伝統が根付いている家具の街です。私たちも、その一端を担ってきました。ただ、今回の挑戦を通じて感じたのは、「旭川だからこそ、できることがある」ということでした。木質系素材を扱う技術。細部にこだわるものづくりの文化。そして、人を大切にする風土。これらすべてが、giraffenapという製品に生きています。



今、私たちは、この製品を全国の企業に導入していただくべく、営業活動を進めています。大手企業からも問い合わせをいただいています。海外からの引き合いもあります。でも、私たちが目指しているのは、ただ製品を売ることではありません。「仮眠を取ることは、恥ずかしいことじゃない」「短時間でも、質の高い休息を取ることが、仕事の質を上げる」—そういう文化を旭川から発信して、日本に根付かせたいという思いです。

点鐘 会長 13:30